

令和4年度 第2回長井市社会教育委員会議事録 【議事概要】

日時：令和5年3月14日（火）10:30～12:00

場所：長井市役所2階庁議室

出席者：■委員：竹田啓委員、迎田浩昭委員、安達英一委員、井上嘸絲委員、竹田幸子委員、加藤俊昭委員、平吹登委員

■事務局：土屋正人(教育長)、鈴木千鶴子(観光文化交流課補佐)、吉川幸代(地域づくり推進課生涯学習推進室長)、武田誠広(地域づくり推進課生涯学習推進室係長)、黒澤美紀(学校教育課指導主査兼指導主事)、今野朋代(健康スポーツ課係長)

協 議

(1) 長井市の令和5年度社会教育事業について

事務局：資料を基に令和5年度事業概要を説明。

委員：学校・家庭・地域の連携協働推進事業費補助金に係る歳入について、減額になるかもしれないということだが、詳しく説明を頂きたい。

事務局：国の予算に対して、現在、各市町村が当該事業について申請中であり、補助金の額が確定してくるのは、例年5月頃となっている。現段階での詳しい情報は降りてきていないものの、当該事業に対する各市町村からの申請が増えている状況であり、国としては全体予算を配分するにあたっては、想定より多くの申請があれば減額となるようだ。

長井市としては、後に説明をする事業予算を組んで、令和5年度予算として3月議会に提出し審議頂いている。もし、国から補助金自体が減額されての決定となれば、その後減額の補正となる。

委員：学校支援事業や、放課後子ども教室事業等、学校だけでなく、地域ぐるみで子どもを育てるという意味でも大事な事業。このような会議でも是非補助金の継続について、国にも要望して頂きたい。

教育長：教育長会議でも要望している。今まで頑張ってきた団体が配分によって減額されるのはおかしいと感じるし、市の要望としても国に挙げているところ。今後も継続して要望する。

委員：はたちを祝う会について、開催のアンケートをとったということだが、服装の関係で8月が多いということだろうか。

事務局：西置賜地区は例年8月に開催しており、東置賜地区は5月の開催が多い。理由までは特定出来ないものの、アンケートの結果は8月開催での意見が一番多かった。例年の開催に際しては、当事者である方々から実行委員を組織いただき、運営に関わっていただいているが、来年度に向け、早い段階で集まっていただき、アンケートの結果を踏まえて、開催時期についてもご検討いただいたところ。実行委員長からは、アンケートの結果も踏まえた上で、8月開催が一番馴染みが良いという返答を

頂き、例年通り8月15日の開催として動いている。

委員：土曜らんどについては、コロナのガイドラインも緩和されると思う。コミセンでも関わらせていただきたい。

事務局：土曜らんどや放課後子ども教室におけるコロナのガイドラインについては、育みネット長井において、かなりしっかりしたものを作成いただいている。山形県のガイドラインを参考に、緩和されていくものと思う。各教室等の開催については、手指消毒等の感染対策はしっかり取りながら、緩和する部分を緩和して実施される予定。また、学校で開催する場合は、影響を考慮し、事務局としては、教育委員会の学校教育課を通じて、開催日程や状況等を共有していく考え。

委員：学校支援活動事業について、旅費について様々な折衝について活用させてほしいし、謝金等についても、実際に活動する推進員等の要望を反映させてほしい。

事務局：当該事業については、国、県等からの補助金の決定等も見ながらとなるため、要望頂いた内容での実施とは必ずしも言えない部分もあるが、なるべく活動しやすい予算の計上を考慮した。また、旅費の部分については、推進員は学校の常駐が基本となるため、あくまでも研修の必要が生じた場合に活用いただくことを想定している。

委員：学校支援活動事業については、5年前から縮減と言われていたもの。事業の趣旨的にも必要なものであり、他の補助金等の可能性も探りつつ、国の上等手段としては無くすものと思われるので、市の予算の仕組みについても是正しつつ進めて頂ければと思う。決まった団体のみでなく、広く視野を広げた団体の参加なども見込んで頂きたい。

教育長：今の視点はとても重要。国は自走を前提に補助予算を組んでいることもある。事業ありきでなく、住民の主体的な動きに合わせて背中を押せるような体制が必要。行政も縦割りを是正しながら、横展開に取り組みながら、事業を実施していく必要がある。

委員長：皆様から貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。ここで、次第には項目として挙がっていないものの、過日開催された「少年会議」について委員から発言を頂ければと思う。

委員：当会であります、長井市まちづくり青少年育成市民会議がこの事業の主催団体となった。この事業は、長井北中学校、長井南中学校、長井高校、長井工業高校それぞれの学校様からご協力いただいております。この事業の目的は、令和元年度まで16年間実施した少年議会と同様、市をより良くする提案を行うことに変わりはなく、従前は模擬議会を通じて提案を行い、市側から答弁を頂く形での開催だったもの。当会の事業を行うに当たっては、三役と事務局とで、実施形態や意義、これからの取り組みの方向性など、様々議論を行い、この度の形になった。事業の内容としては、長井市長様から施政についての講話を頂き、聴講された皆様からアンケートを頂いて、それを参考に、各学校から推薦を頂いた16名の中高生の皆さんと、市役所の職員によるフォロワーにも入っていただき、練り上げた提案を、議場でプレゼンテーションし、その発表に対して市長様、副市長様、教育長様、長井市議会議長様に講評を頂いた。少年議会から大きな方向

転換となりましたが、中高生の皆さんにとっては違和感なく取り組んでいただきました。中高生の皆さんが、自分たちの地域の課題を探って、自分事として解決策を提案頂いたことが、これからの地域の担い手となる意識にもつながったように思いますし、背景としての主権者教育にも繋がってくれたらという期待がございます。中高生の皆さんの姿を見て強く感じた事は、プレゼンテーションの能力、コミュニケーション能力、課題解決能力、それぞれとても強いと感じました。学校での課題解決型の学習をされていることが力になっているのかなとも感じました。学年差も懸念しましたが、忌憚なく意見交換する姿を見て、懸念が払拭されました。また、お子さんたちが、地域のことを相当真剣に考えているし、事後のアンケートには、大変いい機会だったとか、大人の方とお話しできて良かった、将来的には市役所で働いてみたいというような意見もありました。

これから、事業内容を精査しながら、より良い長井スタイルの事業に作り上げていければと思っております。また、お手元に長井市少年活動発表会のYouTubeチャンネル開設のお知らせチラシをお配りしております。コロナ禍前は、各学校における活動発表会を一堂に会し、長井の心を育む少年活動発表会として開催して学びを広めておりました。これも出来なくなったということで、役員で内容を考えました。長井市の教育の基本方針の一番大切な所は、長井の心を育むというものでバックボーンですし、長井市の教育の1ページ目にもそれが書かれております。各学校の教育計画にも、各学校の活動発表が地域の特色を活かして組んでございますので、これは外せないと考えましたが、どういう形で実施するかとても迷いました。長井市ではスマートシティを目指しているということもあり、これにリンクすることができないかということで、このQRコードを読み込んで、各学校で取り組んで頂いていることを共有して、勉強したいということでようやく先日出来上がりまして、各学校に配ったところです。各学校の先生方には、大変ご苦勞をおかけいたしました。このような形で今後も取り組んでいきたいと考えております。

委員長：突然のご氏名でしたが、丁寧にご説明をいただきました。この場をお借りして長井市まちづくり青少年育成市民会議に、何かご意見などございますでしょうか。教育長如何でしょうか。

教育長：少年会議は、従前の議会形式になると、どうしても市への要望で終始してしまうと思っておりました。子供たちの様子も事前の準備から見させて頂きましたが、提案型というのは、やはり自分たちには何ができるのか、まちづくりに対して自分たちが出来る事、という参加型に変わってきたなと感じました。自分達何が出来るのかなという視点は、非常に大事ななと改めて思いました。議会においてもこのことについて質問があったのですが、市民を創ることの意味について答弁されたところですが、やはり学年、学校をシャッフルすることは良いなと思ったことと、一方で、実は市長講話の中で、北中は、授業の中で位置付けて、自分たちで提案をしましたが、それもととても良いものなので、共有したいところです。良い取り組みをいただき感謝申し上げます。

委員長：グループの中高生の皆さんと市役所の職員の皆さんが一体になって提案を作り上げ

て頂きました。来年度もパワーアップして取り組んでいただきたいと思います。以上で、協議を終了いたします。

(2) その他

(事務局及び委員からは議題は無し)

5. その他

平吹委員作成資料「長井市の「生涯学習」グランドデザイン(案)―理念を中心に―」により委員の研修を実施